

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

資料1

評価を変更した項目（10項目）

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																													
2	<p>〔薬学部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能や倫理観を有しつつ、独創性や問題解決能力を身につけるための専門教育を充実させる。（薬科学科） 基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識・技能や倫理観を有しつつ、薬物療法や臨床研究を提案・計画・遂行する能力を身につけるための専門教育を充実させる。（薬学科） <p>(No.2)</p>	<p>〔薬学部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬科学科独自の専門性の高い教育を実践する。低学年次から学生の研究に対するモチベーションの向上及び卒業研究の質的向上を図るため、2年次に研究室での研究を体験するラボ訪問・研究体験を継続実施する。（薬科学科） 薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した講義・実習・演習を行い、より体系的な薬学専門教育を実践する。低学年次から学生の研究に対するモチベーションの向上及び卒業研究の質的向上を図るため、2年次のラボ訪問・研究体験を継続実施する。（薬学科） <p>(No.2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 薬科学科では、学生の研究に対するモチベーションの向上を図るためのラボ訪問・研究体験を対面で実施した（12月～1月）。 薬科学科では、卒業研究の更なる質向上のためのラボ訪問・研究体験を対面で実施した（12月～1月）。また、臨床検査技師受験資格改定に対応し、科目承認校として認められた。 薬科学科では、令和3年度文部科学省の大学改革推進等補助金「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」による学習環境のDXの一環として、新たな医療環境に即応できる薬剤師を養成するためのVRコンテンツを制作した。 	S (R3) (A)	A (R3) (A)	<p>ウィズコロナ時代の新たな医療環境に即応できる薬剤師を養成するため、VR教材を作成するなど、計画を順調に実施したものの、教材を活用した教育は翌年度に開始されることから、令和4年度に計画を上回る成果を上げたとは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><R4の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> VRコンテンツの制作（活用はR5年度） <p>【文部科学省補助金の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体：申請数452件、採択数257件（採択率56.8%） 当該申請メニュー：申請数56件、採択数37件（採択率66.1%） <p>→うち国公立大学：14件採択</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助上限額：10,000千円 補助対象事業：DX等を活用した教育プランの構築（医療人材養成） 																																													
16	<ul style="list-style-type: none"> 学生の看護師、保健師、助産師国家試験の合格に向けた学習を積極的に支援する。 <p><数値目標></p> <p>看護師国家試験 新卒者の合格率100%の維持</p> <p>保健師国家試験 新卒者の合格率全国平均以上の維持</p> <p>(看護学部看護学科)</p> <p>助産師国家試験 新卒者の合格率100%の維持</p> <p>(看護学研究科)</p> <p>(No.16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看護師、保健師、助産師の国家試験合格に向けて模擬試験を行い、成績が低迷する学生には個別支援を行う。また、最新情報を含めた国家試験対策セミナーを行う。 <p><数値目標></p> <p>看護師国家試験 新卒者の合格率100%の維持</p> <p>保健師国家試験 新卒者の合格率全国平均以上の維持</p> <p>(看護学部看護学科)</p> <p>助産師国家試験 新卒者の合格率100%の維持</p> <p>(看護学研究科)</p> <p>(No.16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看護師国家試験に対する支援として、模擬試験を5回、学生の不得意科目の補講や国家試験対策セミナーを実施した。また、保健師国家試験支援として、模擬試験を2回、保健師教育担当教員による国家試験対策セミナーを実施した。看護師・保健師国家試験支援に共通する支援として、模擬試験結果を看護学部教員に報告して共有し、成績の低迷する学生にはアドバイザー教員が支援を行った。また、低学年に対しても低学年者対象の無料の国家試験対策オンラインセミナーの情報を提供し受験準備の動機づけを行った。 助産師国家試験に対する支援として、模擬試験を3回実施した。 <p>看護師国家試験 新卒者の合格率 98.4%</p> <p>保健師国家試験 新卒者の合格率 94.7%</p> <p>全国平均96.8%</p> <p>助産師国家試験 新卒者の合格率 83.3%</p>	A (R3) (A)	B (R3) (A)	<p>看護師国家試験、保健師国家試験及び助産師国家試験において数値目標が未達成となったため、左記の評価とする。数値目標の達成に向け、対策の充実に努められたい。</p> <p>国家試験合格状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">国家試験</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">看護師</td> <td>合格率</td> <td>99.1%</td> <td>100.0%</td> <td>97.5%</td> <td>98.4%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>94.7%</td> <td>95.4%</td> <td>96.5%</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保健師</td> <td>合格率</td> <td>95.9%</td> <td>98.9%</td> <td>96.9%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>96.3%</td> <td>97.4%</td> <td>93.0%</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">助産師</td> <td>合格率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>99.5%</td> <td>99.7%</td> <td>99.7%</td> <td>95.9%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">評価</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【R4：合格者数/受験者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師：120/122人 保健師：90/95人 助産師：5/6人 	国家試験		R1	R2	R3	R4	看護師	合格率	99.1%	100.0%	97.5%	98.4%	全国平均	94.7%	95.4%	96.5%	95.5%	保健師	合格率	95.9%	98.9%	96.9%	94.7%	全国平均	96.3%	97.4%	93.0%	96.8%	助産師	合格率	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	全国平均	99.5%	99.7%	99.7%	95.9%	評価		A	A	A	
国家試験		R1	R2	R3	R4																																														
看護師	合格率	99.1%	100.0%	97.5%	98.4%																																														
	全国平均	94.7%	95.4%	96.5%	95.5%																																														
保健師	合格率	95.9%	98.9%	96.9%	94.7%																																														
	全国平均	96.3%	97.4%	93.0%	96.8%																																														
助産師	合格率	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%																																														
	全国平均	99.5%	99.7%	99.7%	95.9%																																														
評価		A	A	A																																															

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
29	<p>・ アドミッション・ポリシーに沿った入学者を確保するために、高大接続改革へ対応するとともに、試験科目・出題方法を含めた全学的な入試体制の整備や改革を行う。 (No.29)</p>	<p>・ 令和6年度実施の大学入学者選抜の個別学力検査及び大学入学共通テストにおいて課す教科・科目等を決定し公表するとともに、広く県内外の高校生や高校教員等に周知できるよう、各種説明会や相談会等での広報活動に注力する。 ・ 高大接続改革の目的に沿った対応のため、選抜種別間での募集人員の変更や、一般選抜における試験実施方法の詳細について検討を行う。(短期大学部) (No.29)</p>	<p>・ 令和6年度実施の大学入学者選抜の個別学力検査及び大学入学共通テストにおいて課す教科・科目等を決定し令和4年8月に公表した。また、各種進学説明会や高校教員との情報交換会等で説明するなど広報活動を実施した。 ・ 年内入試（総合型選抜及び学校推薦型選抜）における募集人数の増加の成果を検証するために、選抜ごとの出願願状況等を分析した。また、歯科衛生学科の一般選抜では、面接を実施することで、より多面的、総合的に受験生を評価するようにした。(短期大学部)</p>	A (R3) (A)	B (R3) (A)	<p>令和4年度に実施した入試において出題ミスが発生したため、左記の評価とする。再発防止と信頼回復に向け、全学を挙げて取り組む必要がある。</p> <p>< R4入試ミスの概要 > 該当試験：一般選抜前期日程看護学部 口頭試問 内 容：文法が適切でない英文を出題した 対 応：当該設問について全員正解として扱った</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																														
37	<p>・ 学生の意見を定期的に聴き、学習環境や生活支援体制の充実を図る。 民間企業や各種財団へ支援を依頼するなど奨学金の確保を円滑に進める。 学生の自主的な社会活動を奨励するため、クラブ・サークル、委員会、ゼミ等の活動を支援する。 (No.37)</p>	<p>・ 随時、学生の学修に関する相談や意見を聴くことができるよう、対面での意見交換会の設定やオンライン入力フォームでの学生からの意見聴取を継続する。クラブ・サークルの学生や留学生との意見交換を定期的に開催し、学生の交流にも考慮した学習環境の改善に取り組む。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行い、安心して大学に登校できる体制を整える。 ・ 学生への食事の場の提供や憩いの場としての活用のため、学生ホールや食堂のリニューアルに向けた取組を行う。 ・ 学生への奨学金制度の案内の充実を図り、学部・大学院への通知や奨学金の案内を学生が情報を得やすいようWeb学生サービス支援システムを利用して積極的に奨学金への応募を促す。また、各種財団や企業等へ訪問するなど、奨学金確保に向けて取り組む。 ・ おおぞら基金への寄附を充実するため、インターネットによる寄附申し込みを可能とし、基金を活用した学生支援を実施する。あわせて、特定基金を利用した学生支援も実施する。 ・ 静岡県の困窮学生支援一時金を活用して、学生の修学支援を行う。 ・ 開学記念行事など同窓会連合会にも声掛けなどを行うことで参加を促し、今後卒業生のネットワーク構築の基礎を作る。 ・ 学生の意見・提案を収集する窓口の一つとして目安箱を継続設置し、必要に応じて学生の修学環境の整備・改善を行う。(短期大学部) (No.37)</p>	<p>・ 学生の意見等を聴取できるよう、入力フォームを設けて対応した。(問合せフォーム及びk-voice) 具体的には、食堂の改善やアレルギー食品に関する丁寧な説明の促進など、学生の意見にそって対応した。また、クラブ・サークルに関しては、日常的な対応と総会等での意見交換を行い、コロナ禍でのクラブ・サークルの活動指針の見直しなどを行った。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、学内環境整備のため、検温機の増設、アルコール消毒の日々の補充、危機管理のための抗原キットの配布などを行った。 ・ 学生食堂(はばたき棟地下食堂)の再開をした。学生ホールは、壁を淡いグリーン、オレンジに塗り替え、机・椅子との色彩の調和をはかるとともに、木製パーテーションを設置し、学生の作品を展示できるように改修を行った。学生にとって居心地のいい空間を作ったことで、利用者が増加した。 ・ 学生への奨学金制度案内をWeb学生支援システム(通称「ユニパ」)を使って積極的に行い、確実に奨学金を給付・貸与することができた。県内企業6社を訪問し、引き続き奨学金確保に寄与した。 ・ 薬学研究院では、薬系大学院生を支援する内西いよ子基金による給付型奨学金制度により、大学院生3名)への奨学金授与を行った。また薬学部では、同基金によりe-learningシステムを導入し、オンラインによる自己学習システムを継続運用した。 ・ おおぞら基金への寄附拡大のため、インターネットによる寄附申込みを開始した。本学広報誌の配布時に寄附の申込方法を案内するなど、寄附者への周知を図った。 ・ おおぞら基金を利用した学生の修学支援のための給付型奨学金を実施した。 ・ 台風15号により被災した学生に対し、物資等の配布支援を行った。 ・ 静岡県の学びの継続等支援事業を実施し、学部1068人、大学院141人に一律5万円を給付した。 ・ 開学記念行事において、同窓会連合会の設立を受け、シンポジウムを行った。パネルディスカッションでは同窓会連合会、学生、卒業生などにより「卒業生から県大へ期待するもの、学生・大学から同窓会へ期待するもの」として意見交換を行い、様々なネットワーク構築につながった。 ・ 目安箱に寄せられた授業改善や施設の改修等の要望について、関係部署と連携して対応した。また、必要に応じて、投稿者のプライバシーに配慮しながら、関係者の聞き取り等を行った。(短期大学部)</p>	S (R3) (S)	A (R3) (S)	<p>台風15号被災学生への支援、コロナ禍で撤退した学生食堂の再開など、学生支援の取組を順調に実施したものの、前年度と比較して大幅に優れた成果を上げた、または特筆すべき新規の取組を行ったとまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><主な学生支援の取組> ①学内システム問合せフォーム(全般的な意見の聴取) ・ R4問合せ件数: 268件</p> <p>②学内システム入力フォーム(コロナ関連)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問合せ件数</td> <td>97件</td> <td>488件</td> </tr> </tbody> </table> <p>③独自奨学金給付</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援人数</td> <td>68人</td> <td>41人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>3,400千円</td> <td>2,050千円</td> <td>1,050千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>④たべものカフェ(困窮学生への生活支援物資の供給)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>29回</td> <td>28回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>684千円</td> <td>2,490千円</td> <td>764千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤はばたき棟地下学生食堂の営業再開<R4> ・ R3.8閉店→R4.11再開 ・ 利用人数(1日当たり): 260人程度(テイクアウト込)</p> <p>⑥台風15号被災学生への支援<R4> ・ 災害支援金の支給(10万円/人、計10人) ・ 給水所、シャワー室の提供、飲料水の配布(被災発生2日目から10日間)</p> <p>⑦学びの継続等支援事業による経済支援<R4> ・ 県補助金による学生への現金支給(5万円/人) ・ 支援人数: 1,635人 【支援要件】 ・ 高等教育の修学支援新制度利用者 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等によりアルバイト収入が減少した者 等</p>		R3	R4	問合せ件数	97件	488件		R2	R3	R4	支援人数	68人	41人	17人	支援金額	3,400千円	2,050千円	1,050千円		R2	R3	R4	実施回数	29回	28回	26回	支援金額	684千円	2,490千円	764千円
	R3	R4																																		
問合せ件数	97件	488件																																		
	R2	R3	R4																																	
支援人数	68人	41人	17人																																	
支援金額	3,400千円	2,050千円	1,050千円																																	
	R2	R3	R4																																	
実施回数	29回	28回	26回																																	
支援金額	684千円	2,490千円	764千円																																	

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R 4 年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
55	<p>・ 地域社会や静岡県、県内市町、公的機関等及び企業・団体との連携を強化し、地域振興プロジェクト、地域防災活動等に積極的に協力する。県内地域と締結する包括連携協定に基づき、地域と連携して観光分野などの地域貢献活動を推進する。</p> <p>静岡県の試験研究機関、教育機関、その他関係機関と連携し、連携大学院の活動を実施する</p> <p>本学教員の静岡県の各種審議会、委員会等への参画や、静岡県における諸課題の解決に向けた積極的な研究活動などを通じ、県施策の推進に寄与する。</p> <p>県内自治体やNPO法人等の活動と連携し、地域住民の健康づくり、地域の子どものための健全育成に貢献する。 (No.55)</p>	<p>・ 全学共通科目にSDGsに関する科目を追加するとともに、県内高校のSDGsに係る教育活動と連携するなど、SDGsの考え方を積極的に学内外に情報発信することにより、地域社会と問題意識を共有し、連携を進める。</p> <p>・ 静岡市をはじめとする県内自治体や静岡銀行等の金融機関との連携協定に基づいた活動を推進する。</p> <p>・ 「ふじのくに防災土養成講座」など、防災に関する講座を静岡県等と連携して開催する。</p> <p>・ 賀茂地域においては、令和3年度の事業を更に推進し地域貢献に寄与するとともに、同地域における本学のプレゼンス向上に努める。</p> <p>・ 賀茂地域以外の地域においては、賀茂地域での成功事例を基に、静岡県の関係部署と連携して地域貢献を推進する。</p> <p>・ 静岡県環境衛生科学研究所や静岡県立総合病院等と、協定に基づき研究者の受入れ及び大学院生の派遣を実施する。</p> <p>・ 本学教員の静岡県の各種審議会、委員会等への参画や、静岡県における諸課題の解決に向けた積極的な研究活動などを通じ、県施策の推進に寄与する。</p> <p>・ 公開講座や出前講座などを活用し、地域のつながりや多文化共生等を広めていく。(短期大学部) (No.55)</p>	<p>・ SDGsイニシアティブ推進委員会が主体となり、地域との連携活動や学内外への情報発信に取り組んだ。全学共通科目に「SDGs概論」を新たに開講し、履修上限人数の150名が履修した。また前年度に引き続き、県立高校のSDGs探究活動に学生及び教員を派遣した。また、学生と教職員を対象としたSDGs現地見学会や学生団体が学内外で行うSDGsの達成や普及啓発に向けた活動支援を新たに実施した。</p> <p>・ 静岡市をはじめとする県内自治体や静岡銀行等の金融機関との連携協定に基づいた活動を推進した。</p> <p>・ 経営情報学部・経営情報イノベーション研究科では、静岡市と連携し、令和5年からの大河ドラマ放映を機とした静岡市中心部(歴史文化施設、駿府城公園、大河ドラマ館)の観光音声アプリを作成したほか、令和5年の大河ドラマ館開館にあわせ、本学等の学生によるボランティア観光ガイドの養成を、観光まちづくり法人「するが企画観光局」との間で進めた。</p> <p>・ 県立大学の遠隔授業などの知見と遠隔講義室の設備などを活用して「ふじのくに防災土養成講座」のAコースをオンライン開講した。その際、本学教員がオンライン講義の運営だけでなく、講座の講義も担当した。</p> <p>・ 静岡県との賀茂地域連携協定に基づき賀茂キャンパスにおける観光人材育成のための社会人講座を毎月開催したほか、県教委と連携し賀茂地域の中学生・高校生向けのサマースクールや、賀茂地域の高校での観光出前講座を計12回実施した(昨年度は8回)。また、令和5年度より通年カリキュラムとして観光教育が開始となる商業高校の担当教員との意見交換会を開催し、観光に関心がある生徒に対して、経営情報学部の観光教育の内容の周知を依頼した。</p> <p>・ 静岡県と連携し、東静岡県有地有効活用に関する実証実験を前年度に引き続き実施したほか、県が主導するICOIプロジェクトに参画、県と合同で先進地域との意見交換を行うとともに、令和5年度から本学全学共通科目としてのガストロノミー講座開設の準備を行った。</p> <p>・ 静岡県環境衛生科学研究所ほか連携協定締結機関との間で技術情報交換や大学院生の派遣(6人)を行った。</p> <p>・ 静岡県の各種審議会・委員会等への本学教員の積極的な参画を支援し、県施策の推進に寄与した。(令和5年3月31日現在:35人、78件)</p> <p>・ 公開講座をオンラインで実施したほか、依頼に基づき出前講座を開催した。(短期大学部)</p>	<p>S</p> <p>(R3)</p> <p>(S)</p>	<p>A</p> <p>(R3)</p> <p>(S)</p>	<p>県立高校の県立高校のSDGs探究活動に対する学生及び教員派遣を継続したほか、全学共通科目の開講等による学内におけるSDGs推進など、計画を順調に実施したものの、前年度と比較して大幅に優れた成果を上げた、または特筆すべき新規の取組を行ったとまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p>○SDGs推進活動 < R 4 主な新規取組 > ①全学共通科目「SDGs概論」の開講 ・ 受講者数：150人(履修上限人数)</p> <p>②SDGsの達成、普及、啓発活動に対する支援 ・ 対象：学生団体 ・ R 4 支援実績：2団体 →学内コミュニティガーデンの維持管理ボランティア団体に対して種子等の園芸資材を提供 →学生ボランティアセンターに対し、たべものカフェ(困窮学生への生活支援物資の供給)の運営・宣伝資材を提供</p> <p>< 地域貢献活動 (R 4 継続) > ・ 県内高等学校のSDGs教育への協力 実施校：静岡東高校、富士東高校 指導回数：計18回(各9回) 教員派遣数：18人(延べ24人) 学生派遣数：19人(延べ106人)</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

資料1

評価を変更した項目（10項目）

No.	中期計画	R 4 年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)												
62	<p>・ 留学生の確保・育成に関する取組方針の整備を図る。様々な受け入れ形態による留学生等の確保を進める。留学生への教育の質を高めるため、留学生への満足度アンケートを実施する。本学学生に留学情報を提供し、海外留学（交換留学・語学留学）への関心を高める。外国人留学生、日本人学生、教員・研究者及び地域住民等多様な関係者の交流推進にも資する留学生の生活環境の整備を図る。世界大学ランキングの活用等により世界に向けた情報発信を強化し、世界における本学のプレゼンスの向上を図る。</p> <p>〈数値目標〉 留学生等受入人数 140人以上（令和6年度実績） 留学生への満足度アンケート（※） 70%以上の維持（年度） ※留学生へのアンケート調査（5段階評価）において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した留学生の全留学生に占める割合 海外派遣参加学生人数（交換留学生・語学留学生） 第2期中期計画期間の年度平均人数以上の維持（年度） (No.62)</p>	<p>・ 留学生の確保・育成に関する取組方針について検討するため、情報収集を継続する。 ・ 対面及びオンラインでの留学生向けオープンキャンパス実施、国や静岡県の国際交流事業への参加等を通じて、留学生確保に取り組む。 ・ 国際的なインターネット遠隔教育及び遠隔の学生との交流を推進する。 ・ 留学生の満足度を測るアンケートを実施する。 ・ 海外留学セミナーを開催し、在学中の留学計画作成を支援する。 ・ 交換留学等体験学生による報告会「交換留学フェア」を継続するとともに、授業やワークショップ等を通して、留学に関する情報提供及び意識醸成並びに交流の促進を図る。 ・ 語学留学説明会を複数回実施し、留学への促進を図る。 ・ 県立中央図書館跡地利用について情報収集を進める。 ・ 令和4年4月から混住型国際学生寮「富学寮」の供用を開始し、本学学生と交換留学生等が相互理解を育み国際交流を図る場を提供する。 ・ 新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえつつ、東南アジアにおける日本留学フェアや日中大学フェア&フォーラムに参加するなど本学に関する情報を世界に向けて発信するとともに、世界主要国の主要大学等を中心に、人脈形成及び関係構築を図る。</p> <p>〈数値目標〉 留学生への満足度アンケート（※） 70%の維持（年度） ※留学生へのアンケート調査（5段階評価）において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した者の全留学生に占める割合 海外派遣参加学生人数 (交換留学生・語学留学生) 第2期中期計画期間の年度平均人数以上の維持（年度） (No.62)</p>	<p>・ 留学生の確保・育成方針について参考とするため国内大学から情報収集した。 ・ 留学生向けオープンキャンパスをオンラインで開催し、国内外の日本語学校から参加を得た。 ・ インターネットによる遠隔教育を「大学の世界展開力強化事業」（COIL）として大学院薬食生命科学総合学府、国際関係学部、経営情報学部及び看護学部で導入した。また、リーダーシップをテーマとしたCOIL国内3大学+米国ゴンザガ大学のプログラムを実施し学生交流を進めた。 ・ COIL授業を通して、海外大学の学生と日本語及び英語により交流し、社会的・文化的多様性について理解を深めた。 ・ 外国人留学生へのきめ細かな学習支援、生活支援を行った結果、アンケート調査における留学生の本学の留学に対する満足度は目標値を上回った。 ・ 留学へのモチベーションを維持するため、オンラインによる「留学セミナー」を2回実施し、当日は100人が参加、その後のYouTubeの視聴は600回を超えた。また、ウェブサイトを更新し、留学・国際交流に関するFAQを作成し、掲載した。その他、語学研修の説明会をオンラインで実施した。 ・ 国際交流室と言語コミュニケーション研究センターが協力し、カナダ ビクトリア大学留学説明会を2回オンライン実施した。当日参加者は計14名、YouTubeの視聴回数は265回であった。 ・ 静岡県立中央図書館の移転後の跡地への静岡県立大学国際交流会館（仮称）の構想を検討する、「静岡県立大学国際交流会館（仮称）構想検討委員会」設置するための規程を制定した。 ・ 令和4年4月から混住型国際学生寮「富学寮」の供用を開始し、本学学生と交換留学生等が相互理解を育み、国際交流を図る場を提供した。 ・ 東南アジアにおける日本留学フェアやインドネシアの学校に向けたオンラインセミナーを実施し、本学に関する情報を世界に向けて発信するとともに、世界主要国の主要大学等を中心に、人脈形成及び関係構築を図った。</p> <p>留学生受入人数 79人(令和5年5月1日現在)</p> <p>留学生への満足度アンケート 77.2% ※留学生へのアンケート調査（5段階評価）において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した者の全留学生に占める割合</p> <p>海外派遣参加学生人数（交換留学生・語学留学生） 渡航23人（交換留学10人、語学留学13人） オンライン6人（交換留学 1人、語学留学5人）</p>	<p>S (R3) (S)</p>	<p>A (R3) (S)</p>	<p>コロナ禍前の社会情勢に戻りつつある中、留学生等の受入人数は減少傾向、海外派遣参加学生数は横ばい傾向となっているため、左記の評価とする。オンラインなどの多様な手段を活用し、数値目標の達成に向け対策を講じられたい。</p> <p><国際学生寮の取組> 【異文化交流イベントの開催】 ・ 日本茶を学ぶ講座 2回（延べ40人程度）（茶学総合研究センターの協力） ・ 協定校の国や文化を学ぶ講座 4回（延べ100人程度）（交換留学生、本学国際交流サークル、担当教員） ・ 県内の歴史や産業を学ぶツアー 2回（延べ40人程度）（本学教員主催、大学世界展開事業の静岡スタディツアー） ・ ホリデーパーティ（100人程度）（学内の留学生やカンパセーションパートナーが参加） ・ カンパセーションパートナーとの定期・不定期イベント</p> <p><COIL型講義実施状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業科目数</td> <td>7科目</td> <td>14科目</td> <td>7科目</td> </tr> <tr> <td>受講者数（県大生のみ）</td> <td>133名</td> <td>325名</td> <td>258名</td> </tr> </tbody> </table>		R 2	R 3	R 4	授業科目数	7科目	14科目	7科目	受講者数（県大生のみ）	133名	325名	258名
	R 2	R 3	R 4															
授業科目数	7科目	14科目	7科目															
受講者数（県大生のみ）	133名	325名	258名															

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)										
64	<p>・ 海外協定校を中心に相互の教育・研究の充実を図るとともに、特に緊密な関係を有する協定校との交流の拡充を図る。</p> <p>〈数値目標〉 海外大学との新規交流協定締結校数 6校 (令和元年度～令和6年度累計) (No.64)</p>	<p>・ 海外協定校との交流事業に対する予算支援を継続する。海外協定校との教員交換を推進し、情報交換や特別講義等を通じて、教員及び学生双方の教育・研究の充実を図る。特に緊密な関係を有する協定校については、教員・学生の交換等の交流や語学研修派遣を積極的に推進する。渡航が難しい場合はオンラインでの実施も検討する。</p> <p>・ 海外協定校との協定更新により継続的な交流を図る。また、将来的な交換留学の実施も念頭に置き、グローバル化基本方針に基づき、新たな交流先を開拓する。</p> <p>・ 大邱保健大学校との大学間交流をオンラインも活用し、継続して行う。(短期大学部) (No.64)</p>	<p>・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、大学間・部局間交流協定校との交流など渡航を伴うものは、年度の前時点では中止又は延期としたが、年度後半は一部が実現した。</p> <p>・ 海外協定校のうち、ボアジチ大学(トルコ)、フィリピン大学(フィリピン)などから教員を招へいし、特別講義等を対面で実施した。オンラインではプレーメン州立経済工科大学(ドイツ)などの教員による特別講義等を実施し、本学学生・教職員が参加し、教育・研究の充実を図った。</p> <p>・ 本学からは看護学部教員のマヒドン大学(タイ)派遣や、薬学部教員のアリゾナ大学派遣を行った。</p> <p>・ 交換留学派遣については、前年度に引き続き特例制度を利用し渡航可能とし、10名の交換留学生在が現地に渡航した。また、1名がオンラインによる留学を実施した。</p> <p>・ オハイオ州立大学(米国)及びマヒドン大学との大学間交流協定を更新した。また、ボアジチ大学との大学間交流協定の更新に向けた準備を進めた。</p> <p>・ 韓国の大邱保健大学校と教員間交流を実施し、韓国と日本の資格養成課程について発表し意見交換を行った。(短期大学部)</p> <p>海外大学との新規交流協定締結校数 0校(令和4年度)</p>	A (R3) (A)	B (R3) (A)	<p>令和3年度に続き、海外大学との新規交流協定締結校数が0校となったため、左記の評価とする。</p> <p><新規交流協定締結校数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規交流協定締結校数</td> <td>1校</td> <td>1校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	新規交流協定締結校数	1校	1校	0校	0校
	R1	R2	R3	R4												
新規交流協定締結校数	1校	1校	0校	0校												

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
71	<ul style="list-style-type: none"> 職員が大学運営に必要な知識・技能を適切に習得できるよう、外部研修、学内研修及びOJT等の充実を図るとともに、他大学と連携して共同研修に取り組むなど、職員の専門性を高め、職務能力の向上を図る。 (No.71) 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局職員人材育成方針に基づき、能力開発に必要な研修を適切な時期・内容で実施する。 法人固有事務職員については、外部研修を活用し、大学事務に精通した職員の育成を行うとともに、他大学職員との連携を図る。 公立大学協会、全国公立短期大学協会等を通じ、他大学の研修実施状況に関する情報を収集する。 (No.71) 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成方針に基づき、新規採用職員（総合職）研修の実施やWEB研修制度の導入をした他、職員個々のキャリアプランに応じた研修参加や資格取得を促進するため、自己啓発に係る助成制度を整備した。また、適切な時期・内容で研修を実施するため、職位別や目的別といった形で研修体系を可視化できるよう研修マップを作成し、職員に周知した。 公立大学協会研修を活用し、会計セミナーや研究促進のための勉強会等を通じて大学事務における能力を向上させるとともに、若手職員を対象とした基礎研修への参加により、他大学職員との交流を深めた。 公立大学協会の会議等を通じて、他大学の研修実施事例等の情報収集を行った。 全国公立短期大学協会等を通じ、他大学の研修実施状況に関する情報を収集した。(短期大学部) 	S (R3) (A)	A (R3) (A)	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>適切な研修受講時期及び内容を可視化した研修マップを作成したほか、新たに自己啓発に係る助成制度の整備するなど、計画を順調に実施したものの、他大学等と比較して、戦略性が高い若しくは先進的な取組であるとまでは認められないため、左記の評価とする。</p> </div> <p>< R4主な新規取組 > ○自己啓発に係る助成制度の整備 ・研修会参加、資格等取得又は個人研究による自己啓発に対して、一部費用を助成する ・R4申請：2件（うち1件はR5年度末に助成予定）</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)												
76	<p>・ 学内のニーズを踏まえつつ財務諸表等の検証・分析を行い、中期計画の重点事項への予算配分や光熱水費等の経費の節約による効率的な予算執行を図る。</p> <p>〈数値目標〉 管理的経費の削減率（※） 前年度決算比で1%の削減（年度） （前年度管理的経費－当年度管理的経費）/前年度管理的経費 ※管理的経費…財務諸表における一般管理費のうち、租税公課や減価償却費、修繕費等の義務的な経費は除く。 （No.76）</p>	<p>・ 既存事業の見直しや再構築、重点化に加え、事務局組織の改編に伴い事務内容の点検を行うことにより事務の効率化を図り、教育・研究活動の向上につながる事業に対して、計画的、戦略的に予算配分を行う。</p> <p>・ 予算執行状況の把握に努め、事務内容の見直しによる時間外勤務の削減を図るほか、光熱水費や事務的経費の節約を引き続き実施する。</p> <p>〈数値目標〉 管理的経費の削減率（※） 前年度決算比で1%の削減（年度） （前年度管理的経費－当年度管理的経費）/前年度管理的経費 ※管理的経費…財務諸表における一般管理費のうち、租税公課や減価償却費、修繕費等の義務的な経費は除く。 （No.76）</p>	<p>・ 令和4年度当初予算編成方針を踏まえ、第3期中期計画における重点事項及びデジタル技術の活用や職員の人材育成といった令和4年度の重点的な取組を優先し、教育・研究活動の維持・向上に繋がる事業に対して効果的に予算配分を行った。</p> <p>・ 事務の効率化を図るため、年度途中で業務分担を見直し、室をまたいだ業務支援等を行った。（短期大学部）</p> <p>・ 時間外削減に向け、居残り者に対する声掛けや、毎月の事務職員の打合せにおいて時間外縮減や定時退庁日の早期退庁、事務改善による業務負担の軽減等について繰り返し説明・依頼した。</p> <p>・ 適時に年間の執行見込を学内に確認し、適切な予算管理を行った。特に光熱費については、学内に節約を呼び掛けるとともに、執行見込を毎月確認し、県との連絡調整を密に行った。</p> <p>・ エネルギー価格が高騰している状況で毎月の予算執行状況を把握、共有化を図るとともに省エネ性能の高い機器の導入、設備運用方法の見直しや空調運転の許可制への変更など、光熱水費の節約を図った。</p> <p>・ 光熱水費においては燃料費の高騰により、使用料が昨年度を大きく上回っているため、冷暖房運転を天候に応じて弾力的に行うことや節電の呼び掛けを例年以上に行うなど経費の節減に努めた。（短期大学部）</p> <p>管理的経費の削減率 前年度決算比 +16.2%</p>	A (R3) (A)	B (R3) (A)	<p>管理的経費のうち、高騰した光熱費以外の経費について、前年度と比較して増加していることから、左記の評価とする。より効率的に予算を執行されたい。</p> <p><水道光熱費/一般管理費></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般管理費</td> <td>642,603千円</td> <td>746,667千円</td> </tr> <tr> <td>うち水道光熱費</td> <td>62,108千円</td> <td>135,897千円</td> </tr> <tr> <td>一般管理費 (水道光熱費除く)</td> <td>580,495千円</td> <td>610,770千円</td> </tr> </tbody> </table>	区分	R3	R4	一般管理費	642,603千円	746,667千円	うち水道光熱費	62,108千円	135,897千円	一般管理費 (水道光熱費除く)	580,495千円	610,770千円
区分	R3	R4																
一般管理費	642,603千円	746,667千円																
うち水道光熱費	62,108千円	135,897千円																
一般管理費 (水道光熱費除く)	580,495千円	610,770千円																

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
79	<p>・ 静岡県情報公開条例の実施機関として適正な情報公開を行うとともに、業務運営等に関する情報を積極的に公開する。</p> <p>また、教育研究活動や地域貢献活動に関する情報など効果の高い広報資源を活用し、その情報に適した広報媒体を選択しながら、積極的に大学の魅力が国内外に伝わるよう発信する。 (No.79)</p>	<p>・ 教職員を対象に、情報公開・個人情報の保護に関する周知を引き続き行い、情報の適正な取扱いを図る。</p> <p>・ 学生の目線を取り入れた広報物等の作成・情報発信や県外で開催される進学相談会等において本学の魅力をPRするとともに、引き続き、大学ホームページや公式SNSのほか、進学情報サイトを積極的に活用し、教育研究活動や地域貢献活動に関する情報などを動画も活用しながら積極的に発信する。</p> <p>・ 教職員の広報意識を高めるため、広報研修会を実施する。 (No.79)</p>	<p>・ 各室において「公文書の開示等及び保有個人情報の開示等」に関する業務の担当者を定め、事務分掌として明確にした。</p> <p>・ 新たに学生広報大使を募集し、9名が活動した。また、広報誌やSNSでの大学紹介など学生目線による情報発信を随時行った。</p> <p>・ 本学を総合的に紹介した「大学紹介動画」を作成した。令和5年4月から公式サイトで公開する。</p> <p>・ 夏休み県大ツアーを、参加者を小中学生とその保護者とし、人数を50名に制限したうえで、3年ぶりに対面により実施した。</p> <p>・ 進学情報Webサイトのメッセージ配信を、志望度や模試受験者数を参考に配信地域や対象者を精査し、ターゲットを絞って実施した。また、令和3年度に引き続き、進学情報サイトにより、本学教員の授業概要を紹介するとともに、授業の動画を作成し、公開した。</p> <p>・ 本学ウェブサイトの留学・国際交流のページを情報更新・刷新し、学生の留学へのモチベーションや関心を高めるようにした。</p> <p>・ COILのページを一新し、見やすさ、情報更新と充実、英語ページの追加、導入パンフレットと動画を掲載するなどした。</p> <p>・ 令和4年度に供用を開始した本学初の学生寮の情報発信のため、入居者目線でのSNS発信活動を世界に向けて日英二カ国語以上で行った。</p> <p>・ 各学科の教育研究活動や子ども向けワークショップの動画を活用して短期大学部ホームページで情報発信した。また、学生広報大使を活用し、短期大学部ツイッターや新たに開設したInstagramによる情報発信を行った。その他、マイナビや介護ナビなどのサイト、医療福祉系学校進学ガイドブックに掲載し、教育研究活動を発信した。(短期大学部)</p> <p>・ 広報研修会については、「著作権法」の講義を実施し、40人の教職員・学生が研修に参加し、SNS等で情報発信する際の音楽や映像の使用などについての知識を高めた。</p>	S (R3) (A)	A (R3) (A)	<p>新たに創設した学生広報大使を活用した情報発信、国際学生寮の入居者による多言語でのSNS発信など、計画を順調に実施したものの、他大学等と比較して、戦略性が高い若しくは先進的な取組であるとまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><学生広報大使の活動実績> ○広報誌はばたき (145号：4,600部、146号：5,600部) ・表紙モデル(145号、146号) ・連合同窓会長インタビュー(145号) ・OB・OGインタビュー(146号) ・小鹿キャンパス周辺MAP(146号) ○静岡市広報紙「静岡気分」1月号特集 266,300部/月 ○広報大使公式Twitterへの投稿 ・投稿数296件、フォロワー数132人 ○広報大使公式Instagramへの投稿 ・投稿数40件、フォロワー数250人 ○短期大学部紹介動画 950回視聴、チャンネル登録111人 ○県民の日「夏休み県大ツアー」 ・小中学生及びその保護者 参加者35人 ・6人の大使が説明・案内を担当 ○県短わくわく体験会 ・幼児から高校生及びその保護者 参加者34人 ・2人の大使が書道パフォーマンス実演、案内を担当</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 令和4事業年度評価）

評価に当たっての意見がある項目（1項目）

資料1

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																
27	<p>・ 社会人、留学生を含めた志願者の状況や入試に関する外部要因の情報に基づく入学者確保対策や学内教育体制の検討、見直しに取り組み、各学科、各専攻の定員充足を図る。 大学院については、入学定員の充足を目指した取組を推進する。</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100% 博士／博士後期課程 100% (No.27)</p>	<p>・ オープンキャンパスやイベントの開催、情報発信を効果的に実施し、志願者数向上のための改善を図る。 ・ 大学院説明会を開催し、他大学及び社会人、海外からの志願者の増加を図る。 また、志願者数の増加及び社会人大学院生・留学生を確保するために、積極的な広報活動を展開する。(薬学専攻、薬科学専攻、薬食生命科学専攻) ・ 内部からの大学院進学を促すとともに、社会人や海外からの大学院生を確保するための効果的な大学院説明会の在り方を検討する。また、大学院ホームページの英語版を充実させ、海外からの留学志願者にPRする。(食品栄養科学専攻、環境科学専攻) ・ 志願者数向上に向けて、学部広報及び入試方法の改善を含めて具体的検討を継続する。(国際関係学部) ・ 観光出前授業や高校教員との意見交換会を行うことにより、観光分野を中心に本学での学びの特色等について積極的に情報発信する。また、賀茂地域での中高生向けワークショップを引き続き行う。(経営情報学部) ・ 観光分野の博士前期課程志願者の確保に向け、引き続き地方自治体等に積極的に働き掛けていくほか、社会人講座を通じて情報発信に努める。あわせてツーリズム研究センターのホームページやパンフレットを改訂し、情報発信の強化に努める。(経営情報イノベーション研究科) ・ 募集要項やホームページへの掲載内容を充実させることにより、情報発信を強化し、外国人留学生の確保に努める。(経営情報イノベーション研究科) ・ オープンキャンパスを中心に入学者選抜方法、教育方法、長期履修制度などの広報を行い、入学者確保対策を行う。(看護学部、看護学研究科) ・ 入学定員数の在り方について、引き続き検討を行う。(食品栄養科学専攻、環境科学専攻、看護学研究科) ・ オープンキャンパスの実施や模擬講義の動画公開など、志願者数増加のための効果的な方法を検討する。また、各専攻での志願者動向を分析した上で、高校訪問等を実施し、定員充足を図る。(短期大学部)</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100% 博士／博士後期課程 100% (No.27)</p>	<p>・ 薬学部では、バーチャルオープンキャンパスとして、学部紹介動画、模擬講義動画(10本)、バーチャル模擬薬局見学動画、「県大薬の先輩に聞いてみた!」(4本)を公開した。また、バーチャルスペースを利用して参加型双方向イベントを実施した(参加登録者445名)。 ・ 食品栄養科学部では、オンラインによるオープンキャンパス、入試相談会を実施するとともに、模擬講義の動画配信を行った。また、対面によるミニキャンパスツアーを行い、志願者数向上のための広報に努めた。 ・ 国際関係学部では、オープンキャンパスでzoomを利用して高校生と双方向的な対話を行った。 ・ 経営情報学部ではオープンキャンパスがオンライン開催となったことを受け、別途オンラインによる大学院個別進学相談会を前期、後期に1回ずつ開催した。 ・ 看護学部では、バーチャルオープンキャンパスを開催し、学部や各看護学領域の紹介動画を配信するとともに、入試概要やカリキュラムの説明や参加者からの質問に在校生が回答するライブ配信を行った。 ・ 薬食生命科学総合学府(薬系)では、動画配信による大学院説明会を実施した。また、海外からの入学生増加に向け、英語版ホームページのコンテンツ充実に取り組んだ。 ・ 薬食生命科学総合学府(食系)では、大学院PRのため、大学院の概要及び入試制度などの紹介する動画や特に優れた研究成果や受賞などをホームページに掲載した。また、英語版を含むホームページの充実を図った。さらに、入学定員数の在り方について継続的に協議を行った。 ・ 国際関係学部では、各種入試志願者数、及び受験産業の情報を分析し、志願者数向上のための検討を行った。また、学部の長期履修制度導入の検討を行った。 ・ 国際関係学研究科では、オープンキャンパス委員会が大学院説明会を開催し、志願者数向上に向けて研究科の情報提供を実施した。静岡県内外への対象範囲の拡大を試み、東京都を中心とした日本語学校を対象とした大学院説明会を開催した。長期履修制度ワーキンググループを設置し、大学院生の長期履修を可能にする制度を令和4年度末に構築した。二次募集では令和3年度に続きオンラインによる口頭試問を実施した。 ・ 経営情報学部では、伊豆地域の高校を中心に観光出前授業を計12回実施した(令和3年度は3回実施)。また、令和5年度より通年カリキュラムとして観光教育が開始となる商業高校の担当教員との意見交換会を開催し、観光に関心がある生徒に対する経営情報学部の観光教育の周知を依頼した。また、8月に賀茂地域の中高生を対象にしたワークショップを開催した。 ・ 経営情報イノベーション研究科では、賀茂キャンパスにおける社会人講座開催時や静岡県庁の関係部署との諸合や県内市町との観光関連意見交換時に、本学大学院でのリスキングの必要性や、大学院博士前期課程におけるカリキュラム等を説明したほか、高校商業科における観光教育開始を受けて高校教員にもリスキングに関する説明を行った。また、募集要項を見直し、博士前期課程と後期課程の募集要項を合冊とすることとした ・ 看護学部では、高大連携活動にも積極的に取り組んだ。看護学研究科ではハイブリッド1回・オンライン1回開催し、入学者選抜方法や長期履修制度の説明、各看護学領域の紹介、修了者による体験講演、対面開催時は教員への個別相談や在校生交流会を行った。また、大学サイトや大学院進学情報サイトへの入学者選抜に関する情報の掲載、関係各所への大学総合案内・看護学部/看護学研究科案内の送付、県大ツアーを活用した広報活動を行った ・ 短期大学部では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、3年ぶりに対面式のオープンキャンパスを開催した。さらにオープンキャンパスの一環として、本学教員による模擬講義の動画を11月末まで、学生広報大使を活用した大学案内や各学科紹介の動画を3月末まで公開したほか、本学への受験実績等を踏まえ、高校訪問を42校実施した。また、3月には緊急プロジェクトを立ち上げ、志願者数増加のための効果的な方法を継続的に検討することとした。</p> <p>大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100.9% 博士／博士後期課程 56.8%</p>	<p>B (R3) (B)</p>	<p>B (R3) (B)</p>	<p>大学院の博士／博士後期課程における大幅な定員未充足については、教学面だけでなく経営面からも今後の対応策を検討し、早急に大学院全体の将来構想を議論されたい。</p> <p>入学定員充足状況（大学院）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">修士/博士前期</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>入学者数</th> <th>入学定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>86</td> <td>111</td> <td>77.5%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>122</td> <td>111</td> <td>109.9%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>109</td> <td>111</td> <td>98.2%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>112</td> <td>111</td> <td>109.9%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">博士/博士後期</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>入学者数</th> <th>入学定員</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>35</td> <td>44</td> <td>79.5%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>25</td> <td>44</td> <td>56.8%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>25</td> <td>44</td> <td>56.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 大学院博士後期課程では、令和3年度から悪化し、定員充足率が60%を割り込んでいる ・ 14研究科中9科において定員割れが生じている</p>	修士/博士前期				年度	入学者数	入学定員	充足率	R1	86	111	77.5%	R2	122	111	109.9%	R3	109	111	98.2%	R4	112	111	109.9%	博士/博士後期				年度	入学者数	入学定員	充足率	R1	35	44	79.5%	R2	42	44	95.5%	R3	25	44	56.8%	R4	25	44	56.8%
修士/博士前期																																																						
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																			
R1	86	111	77.5%																																																			
R2	122	111	109.9%																																																			
R3	109	111	98.2%																																																			
R4	112	111	109.9%																																																			
博士/博士後期																																																						
年度	入学者数	入学定員	充足率																																																			
R1	35	44	79.5%																																																			
R2	42	44	95.5%																																																			
R3	25	44	56.8%																																																			
R4	25	44	56.8%																																																			

* 自己評価及び検証の下段カッコ書きは、昨年度評価結果

検証後の集計結果（静岡県公立大学法人）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教 育 研 究 等	1 教育	41	0	1	37	3	0	0	3	37	1	0
	2 研究	12	0	2	10	0	0	0	2	10	0	0
	3 地域貢献	8	0	0	8	0	0	0	1	7	0	0
	4 グローバル化	5	0	0	4	1	0	0	1	4	0	0
	合 計	66	0	3 (4.5%)	59 (89.4%)	4 (6.1%)	0	0	7 (10.6%)	58 (87.9%)	1 (1.5%)	0
法 人 経 営	1 業務運営の改善	7	0	0	7	0	0	0	1	6	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	2	1	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合 計	11	0	0	10 (90.9%)	1 (9.1%)	0	0	1 (9.1%)	10 (90.9%)	0	0
自 己 点 検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開・広報の充実	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0	0	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	2 社会的責任	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	合 計	5	0	0	5 (100%)	0	0	0	0	5 (100%)	0	0
総 合 計		84	0	3 (3.6%)	76 (90.5%)	5 (5.9%)	0	0	9 (10.7%)	74 (88.1%)	1 (1.2%)	0

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)												
11	<p>[看護学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学研究科の機能強化を図るために、博士前期課程においては教育機能の検証とともにキャリア育成に係る高度看護実践教育に取り組む。 博士後期課程においては、高度な専門的知識の活用のみならず、新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組める研究能力、地域において制度的な枠組みを主導的に構築できる能力を身に着けることができる教育課程の確立を目指す。 静岡県の助産師養成の現状、実習施設の状況、教育体制などを総合して評価し、教育の拡充を図る。 (No.11) 	<p>(中期目標期間1～4年目の実施状況概略及び5～6年目の実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士前期課程において、医療・研究の専門家による特別講義を実施した。 令和2年度に看護職者のリカレント教育の拠点として「看護実践教育研究センター」を設置した。「特定行為に係る看護師の研修制度」を開始するべく厚生労働省に指定研修機関の認可申請を行い、令和3年2月に認可承認を得、令和3年4月より看護師特定行為研修を開始した。 令和2年度に看護学研究科博士後期課程を新たに設置し、カリキュラムの運用を開始し、令和4年度に最初の修了者を送り出した。 助産学課程(助産師養成課程)においては、平成31年度カリキュラムを評価するとともに保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に基づく見直しを行い、令和4年4月より新しいカリキュラムの運用を開始した。 	S	A	<p>県内の看護分野のリカレント教育の拠点として、計画の達成に向け順調な取組が見られるものの、期間を通じて優れた成果・実績を上げたとはまでは認められないため、左記の評価とする。地域医療の多様なニーズに対応し、看護職の学ぶ意欲に応えるなど、教育内容の拡充を図りたい。</p> <p>看護実践教育研究センターの取組 (R2設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師助産師看護師法に規定する看護師の特定行為に係る研修事業を実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者数</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>修了者数</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>※定員：5名</p>		R 3	R 4	R 5	受講者数	1人	2人	4人	修了者数	1人	2人	-
	R 3	R 4	R 5														
受講者数	1人	2人	4人														
修了者数	1人	2人	-														

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
29	<p>・ アドミッション・ポリシーに沿った入学者を確保するために、高大接続改革へ対応するとともに、試験科目・出題方法を含めた全学的な入試体制の整備や改革を行う。 (No.29)</p>	<p>・ 令和2年度からWeb出願システムを導入し運用した。 ・ 作問・点検・精査体制の見直しを行い、業者による事前点検を導入し、入試問題点検を一層強化した。 ・ 令和6年度実施の大学入学者選抜の個別学力検査及び大学入学共通テストにおいて課す教科・科目等を学部及び入学者選抜委員会等で検討を行ったうえで決定し、令和4年8月に公表した。 ・ 短期大学部では、募集人員の変更や一般選抜における試験方法を変更するなど、入学者確保のための取組及び高大接続改革への対応を行った</p>	A (R4) (A)	B (R4) (B)	<p>期間中、複数回、出題ミスの原因とする入試ミスが発生しているため、左記の評価とする。チェック体制を強化し、再発防止を徹底された。</p> <p>○R1及びR4に実施した大学入学者の個別学力検査において、出題の誤りが発生</p> <p>(1) 令和元年度発生した出題の誤り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する試験 2020年度大学入試センター試験を免除する推薦入試 薬学部適性検査「物理基礎・物理」 ・ 誤りの内容 条件設定が不適切であり、正答を導き出せない出題となった ・ 対応 当該設問について全員正解として扱った <p>(2) 令和元年度発生した出題の誤り②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する試験 2020年度一般入試公立大学中期日程及び2020年度私費外国人留学生入試 薬学部「化学基礎・化学」 ・ 誤りの内容 条件設定に誤りがあった ・ 対応 当該設問について全員正解として扱った <p>(3) 令和4年度発生した出題の誤り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する試験 2023年度一般選抜前期日程 看護学部口頭試問 ・ 誤りの内容 口頭試問（英語を題材とした問題）で出題した文法が適切でない英文を出題した ・ 対応 当該設問について全員正解として扱った

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																								
37	<p>・ 学生の意見を定期的に聴き、学習環境や生活支援体制の充実を図る。 民間企業や各種財団へ支援を依頼するなど奨学金の確保を円滑に進める。 学生の自主的な社会活動を奨励するため、クラブ・サークル、委員会、ゼミ等の活動を支援する。 (No.37)</p>	<p>・ 学生のニーズを把握し、学習環境の充実を図るために、学生との意見交換会を継続して実施した。また、メール相談窓口の設置し学生の悩みや困りごとに対応する体制を整備した。 ・ 奨学金制度の案内を充実させ、奨学金に応募する学生数の増加を図った。 ・ おおぞら基金への寄附拡大のため、本学広報誌の配布に併せてチラシを配布し、協力依頼を行った。また、寄附者の利便性向上のため、インターネットによる寄附申し込みを新たに導入した。また新型コロナで困窮した学生への支援のための寄附募集をホームページ等により広報し、寄附金を獲得した。 ・ 開学記念行事シンポジウムにおいて、同窓会連合会、学生、卒業生などによるパネルディスカッションを開催し、ネットワークの構築を図った。 ・ おおぞら基金を活用し、新型コロナで困窮した学生への支援金給付、「たべものカフェ」の開催支援を行った。 ・ 令和元年度から、本学出身者からの寄附による特定基金（内西いよ子基金）を活用し、薬食生命科学総合学府のうち、薬学系大学院に在籍する大学院生への給付型奨学金事業を開始した。また、同基金を活用したe-learningシステムによるオンライン自己学習を令和2年度から実施し、学生の学習環境を整備した。 ・ 短期大学部では、目安箱（学生のこえ）を定期的に確認し、投稿された内容について、随時関係部署と協力して対応した。また、令和4年度は、学生会と話し合いの場を設け、学校行事の企画・運営の充実やクラブ・サークル活動の活性化を目指して、コロナ禍で停滞していた学生の課外活動に対する支援を行った。 ・ 新型コロナウイルスの影響による生活困窮学生に対しては、修学支援法に基づく家計急変事由による授業料減免、本学独自の緊急減免、授業料納付猶予・分納許可等の措置をホームページや一斉メール等により周知した（令和2年度～）。</p>	S	A	<p>学生支援の取組を順調に実施したものの、期間を通じて優れた成果・実績を上げたとまでは認められないため、左記の評価とする。コロナ禍での経験を踏まえ、きめ細かな学生支援に引き続き取り組むとともに、全ての学生の幅広い意見を定期的に収集して結果を分析し、大学運営の改善につなげる仕組みを構築することを期待する。</p> <p><コロナ禍に対応した主な学生支援> ①独自奨学金給付</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援人数</td> <td>88人</td> <td>41人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>3,400千円</td> <td>2,050千円</td> <td>1,050千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>②たべものカフェ（困窮学生への生活支援物資の供給）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>29回</td> <td>26回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>884千円</td> <td>2,490千円</td> <td>764千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>③学生ホールの設備改修（R3） ・ コロナ禍による予算の執行残を活用し、学習環境整備・食堂の密対策・交流の場の提供のためのテーブルや椅子等の設置 ・ 事業費：1,410千円</p> <p>④困窮学生への学生食堂の食事代の補助（R3） ・ コロナ禍による予算の執行残を活用し、1食（500円相当）当たり300円の助成を生活困窮学生に対し実施 ・ 事業費：569千円（のべ1,896人）</p> <p>⑤女性トイレへのオイテル設置（R3） ・ 設置時期：R3年10月 ・ 設置台数：48台 ・ 配布枚数：平均約1,000枚/月</p> <p>⑥学びの継続等支援事業による経済支援<R4> ・ 県補助金による学生への現金支給（5万円/人） ・ 支援人数：1,635人 【支援要件】 ・ 高等教育の修学支援新制度利用者 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響等によりアルバイト収入が減少した者 等</p>		R2	R3	R4	支援人数	88人	41人	17人	支援金額	3,400千円	2,050千円	1,050千円		R2	R3	R4	実施回数	29回	26回	26回	支援金額	884千円	2,490千円	764千円
	R2	R3	R4																										
支援人数	88人	41人	17人																										
支援金額	3,400千円	2,050千円	1,050千円																										
	R2	R3	R4																										
実施回数	29回	26回	26回																										
支援金額	884千円	2,490千円	764千円																										

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)															
40	<p>・ 社会情勢にあわせ適切なキャリア・就職支援を低学年から行うとともに、就職活動に関する情報の収集・学生への提供等に取り組む。 OB・OGとの連携体制を整え、キャリア・就職支援に活用する。 学生支援に資するための県内産業界と連携した取組を行う。 就職希望者の就職率100%を目指したキャリア支援を行う。</p> <p>〈数値目標〉 就職率（全就職希望者数比） 大学、大学院全体 100% (No.40)</p>	<p>・ キャリア支援センターにおいて、キャリア形成に関わる講演会、シンポジウム、セミナーの開催や個別相談を行い、学生のキャリア形成を支援した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを活用しながらキャリアアドバイザーによる個別相談や就職ガイダンス、学内企業説明会、各種イベント等、きめ細かな就職支援を実施した。</p> <p>・ 低学年からのキャリア教育を推進するため、全学共通科目として「キャリア形成概論 I・II」を開講し、人生と働くことの関わりや自己と社会の関わりについて考える契機を提供した。</p> <p>・ 卒業生調査を実施し、卒業生の卒業後の状況について尋ねるとともに本学のキャリア・就職支援を中心とした学生支援についての卒業生の評価を尋ねることで、その結果を今後のキャリア・就職支援、学生支援のあり方の検討資料として活用した。</p> <p>・ 学生の主体的・自主的な活動の活性化を図るため、他大学の社会貢献活動に携わっている学生団体を招き、キャリア形成シンポジウムを開催し、本学の学生団体と事例発表、ワークショップ等を行った。</p> <p>・ 就職活動の仕方、応募書類の書き方、面接対策、就職活動におけるマナー、本大学で提供する就職支援サービス等を掲載したガイドブックを作成し、就職活動に関する情報を提供した。</p> <p>・ キャリア支援委員会を通して学部・大学院との連携を図った。</p> <p>・ キャリアアドバイザーによる、キャリア形成に関することや、就職活動の悩み、業界企業研究の仕方、応募書類の添削指導、面接指導等を行った。</p> <p>・ 県内産業界と連携を行うため、求人開拓員3人を東部・中部・西部に配置し、企業訪問を行い、県内企業の情報収集及び新規開拓を行った。併せて留学生情報の収集を行った。</p> <p>・ 学生に様々な企業・団体等の方々と接し、業界及び企業・団体に対する理解を深めてもらうための業界勉強会・病院等説明会等を開催した。</p>	A (R4) (A)	S (R4) (A)	<p>・ 第3期中期目標期間において、全ての年度で全国平均を上回っており、かつ100%に近い水準を維持している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職率（県大）</td> <td>99.0%</td> <td>98.4%</td> <td>98.4%</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>就職率（全国）</td> <td>98.0%</td> <td>96.0%</td> <td>95.8%</td> <td>97.3%</td> </tr> </tbody> </table>		R 1	R 2	R 3	R 4	就職率（県大）	99.0%	98.4%	98.4%	99.0%	就職率（全国）	98.0%	96.0%	95.8%	97.3%
	R 1	R 2	R 3	R 4																
就職率（県大）	99.0%	98.4%	98.4%	99.0%																
就職率（全国）	98.0%	96.0%	95.8%	97.3%																
41	<p>・ 短期大学部では、外部講師による就活セミナーの開催等キャリア形成を支援するための講座を充実させる。また、就活イベントへの参加により、積極的な情報収集、求人開拓及び学生への周知を行う。 就職希望者の就職率100%を目指したキャリア支援を行う。</p> <p>〈数値目標〉 就職率（全就職希望者数比） 短期大学部 100% (No.41)</p>	<p>・ 短期大学部では、令和2年度から静岡新卒応援ハローワーク、しずおかジョブステーション中部の2機関に依頼し個別相談の実施日を増加させた。また、面接セミナーや集団討論セミナー、福祉の仕事ガイダンスなど、学生の進路を支援するための講座及びガイダンスを増加させた。また、新型コロナウイルスによる、就職活動オンライン化の影響により、オンライン相談を取り入れ、学生のニーズに対応した。</p>	A (R4) (A)	S (R4) (A)	<p>・ 第3期中期目標期間において、全ての年度で全国平均を上回っており、かつ100%に近い水準を維持している</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職率（県大）</td> <td>100.0%</td> <td>98.3%</td> <td>99.1%</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>就職率（全国）</td> <td>97.0%</td> <td>96.3%</td> <td>97.8%</td> <td>98.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国の就職率については、女子のみを抽出した数値</p>		R 1	R 2	R 3	R 4	就職率（県大）	100.0%	98.3%	99.1%	99.0%	就職率（全国）	97.0%	96.3%	97.8%	98.1%
	R 1	R 2	R 3	R 4																
就職率（県大）	100.0%	98.3%	99.1%	99.0%																
就職率（全国）	97.0%	96.3%	97.8%	98.1%																

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
45	<p>[経営情報学部、経営情報イノベーション研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・公共・社会においてイノベーションを促進するための、経営・政策・情報・観光及びそれらを融合した領域における研究を推進する。(No.45) 	<ul style="list-style-type: none"> 観光教育を令和元年度から開始したことに伴い、令和2年度に観光分野における研究基盤、地域連携の拠点として「ツーリズム研究センター」を設置した。これにより、地域経営研究センター、医療経営研究センター、ICTイノベーション研究センター、ツーリズム研究センターの4研究センターによる研究推進体制を確立した。 地域経営研究センターでは、社会人学習講座やビジネスセミナーを通じて経営情報イノベーション研究科の4分野の教育・研究に関する成果を、地域に還元した。また、社会人学習講座の一層の充実を図るため、他学部・外部団体との連携強化を進めた。 	S (R4) (A)	A (R4) (A)	<p>令和2年度にツーリズム研究センターを設置し、賀茂地域等での活動を展開するなど、計画の達成に向け順調な取組が見られるものの、期間を通じた4研究センターにおける特筆すべき成果や、中期計画に掲げる「経営・政策・情報・観光を融合した領域における研究の推進」についての取組状況が認められないため、左記の評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> R2年度「ツーリズム研究センター」設置 →経営・政策・情報・観光の4分野における研究の推進体制を整備 R元年度観光マネジメント教育開始 →経営や総合政策、データサイエンスの知識を基盤に、観光マネジメントの知識と能力をもった学生を育成 社会人学習講座の開催 →経営情報イノベーション研究科の研究成果に基づく専門的・個性的な内容の講座を提供
55	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会や静岡県、県内市町、公的機関等及び企業・団体との連携を強化し、地域振興プロジェクト、地域防災活動等に積極的に協力する。 県内地域と締結する包括連携協定に基づき、地域と連携して観光分野などの地域貢献活動を推進する。 静岡県の試験研究機関、教育機関、その他関係機関と連携し、連携大学院の活動を実施する 本学教員の静岡県の各種審議会、委員会等への参画や、静岡県における諸課題の解決に向けた積極的な研究活動などを通じ、県施策の推進に寄与する。 県内自治体やNPO法人等の活動と連携し、地域住民の健康づくり、地域の子どもの健全育成に貢献する。(No.55) 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県（地震防災センター）と共催で「ふじのくに防災士養成講座」を実施し、教室等の提供や、運営等の面で協力した。地震防災センターで行われた「ふじのくに防災学講座」において、本学教員が講演を行い、運営等の面で協力した。 ツーリズム研究センターでは、令和元年度に締結した本学及び静岡大学、静岡文芸芸術大学の3大学と賀茂地域1市5町との相互連携協定に基づき、中学生や高校生を対象に観光出前授業や観光事業者向けに社会人講座を開講するなど、同地域の活性化の推進に取り組んだ。また、静岡県内の他の市町や民間企業との連携、共同研究も活発に取り組み、観光を通じた地域振興に寄与した。 	S (R4) (S)	A (R4) (A)	<p>ツーリズム研究センターによる自治体・企業との連携事業など、計画の達成に向け順調な取組が見られるものの、期間を通じて優れた成果・実績を上げたとはまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><ツーリズム研究センターにおける取組></p> <p>【賀茂地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光事業者等を対象とした社会人講座 中学生・高校生を対象としたワークショップの開催 下田高校「高校生のための観光講座」の開講 下田高校生徒・下田市・観光協会等との意見交換会 オンラインツアー「賀茂の若旅」の企画実施 <p>【その他の地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県との協働によるJR東静岡駅南口の県有地の再開発計画の検討 静岡市との連携による、大河ドラマ放映を機とした静岡市中心部（歴史文化施設、駿府城公園、大河ドラマ館）の観光音声アプリを作成や大河ドラマ館開館にあわせた、ボランティア観光ガイドの養成 沿線の地域活性化に向けた静岡鉄道との共同研究

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																
62	<p>・ 留学生の確保・育成に関する取組方針の整備を図る。様々な受け入れ形態による留学生等の確保を進める。留学生への教育の質を高めるため、留学生への満足度アンケートを実施する。</p> <p>本学学生に留学情報を提供し、海外留学（交換留学・語学留学）への関心を高める。</p> <p>外国人留学生、日本人学生、教員・研究者及び地域住民等多様な関係者の交流推進にも資する留学生の生活環境の整備を図る。世界大学ランキングの活用等により世界に向けた情報発信を強化し、世界における本学のプレゼンスの向上を図る。</p> <p>〈数値目標〉 留学生等受入人数 140人以上（令和6年度実績） 留学生への満足度アンケート （※） 70%以上の維持（年度） ※留学生へのアンケート調査（5段階評価）において、本学への留学に対する満足度を上位2段階のいずれかに回答した留学生の全留学生に占める割合 海外派遣参加学生人数（交換留学生・語学留学生） 第2期中期計画期間の年度平均人数以上の維持（年度） （No.62）</p>	<p>・ 留学生の確保・育成方針について参考とするため国内大学から情報収集した。</p> <p>・ 留学生確保に向けたオンラインセミナーを実施し、国内外の日本語学校等から多くの参加者を得た。また、海外で開催された留学フェアに職員を派遣した。コロナ禍においては、オンラインを活用し、本学への留学誘致と周知を継続して実施した。</p> <p>・ 外国人留学生へのきめ細かな学習支援、生活支援を行った結果、満足度アンケートでは中期計画期間を通じて、数値目標を上回っている。</p> <p>・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の海外留学へのモチベーションを保持するために、初心者向け留学セミナー、交換留学説明会をオンラインで実施した。また、説明会の録画動画の配信、国際交流・留学ページの刷新、FAQの掲載等、学生がいつでも情報を得ることができる仕組みを作った。</p> <p>・ 言語コミュニケーション研究センターと国際交流室との連携により、語学研修を実施する提携校のプログラム説明会及び語学留学説明会を実施し、プログラム参加者が参加希望者と交流する場を設け、留学の実現に向けた意識の向上を図った。また、協定校のオハイオ州立大学より教員を招き、アメリカ留学の実情に関する講演会も開催した。</p> <p>・ 国際学生寮及び教職員住宅の環境整備を推し進め、キャンパス環境のグローバル化促進の一環として、日本人学生と外国人留学生が混住する国際学生寮（国際シェアハウス）を令和4年4月に開寮した。国籍、年齢等を超え、本学学生のみならず、地域住民との交流もできる場を提供した。また、教職員住宅の一部も交換留学生が居住できるように環境整備をした。</p>	S (R4) (S)	A (R4) (A)	<p>海外からの留学生と日本人学生が混住して交流する国際学生寮を設置し、国際交流推進に資する環境を整備したものの、数値目標が未達成のため、左記の評価とする。残された期間において、留学生等の受入、学生の海外派遣など、コロナ禍で停滞していた国際交流事業について、目標に掲げる水準まで回復されたい。</p> <p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際学生寮の設置（R3：整備、R4：運用開始） ・ アンケート満足度は例年目標数値を達成 ・ 海外派遣参加学生数について、R2に新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少したが、R3、R4で徐々に回復 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 1</th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>留学生受入人数</td> <td>99人</td> <td>91人</td> <td>91人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>アンケート満足度</td> <td>82.2%</td> <td>97.1%</td> <td>88.5%</td> <td>77.2%</td> </tr> <tr> <td>海外派遣参加学生人数</td> <td>29人</td> <td>0人</td> <td>8人</td> <td>23人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ COIL型講義の実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R 2</th> <th>R 3</th> <th>R 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業科目数</td> <td>7科目</td> <td>14科目</td> <td>7科目</td> </tr> <tr> <td>受講者数（県大生のみ）</td> <td>133名</td> <td>325名</td> <td>258名</td> </tr> </tbody> </table>		R 1	R 2	R 3	R 4	留学生受入人数	99人	91人	91人	79人	アンケート満足度	82.2%	97.1%	88.5%	77.2%	海外派遣参加学生人数	29人	0人	8人	23人		R 2	R 3	R 4	授業科目数	7科目	14科目	7科目	受講者数（県大生のみ）	133名	325名	258名
	R 1	R 2	R 3	R 4																																	
留学生受入人数	99人	91人	91人	79人																																	
アンケート満足度	82.2%	97.1%	88.5%	77.2%																																	
海外派遣参加学生人数	29人	0人	8人	23人																																	
	R 2	R 3	R 4																																		
授業科目数	7科目	14科目	7科目																																		
受講者数（県大生のみ）	133名	325名	258名																																		

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価を変更した項目（10項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)										
64	<p>・ 海外協定校を中心に相互の教育・研究の充実を図るとともに、特に緊密な関係を有する協定校との交流の拡充を図る。</p> <p>〈数値目標〉 海外大学との新規交流協定締結校数 6校 (令和元年度～令和6年度累計) (No.64)</p>	<p>・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、渡航を伴う交流事業が中止になったが令和2年度から3年度にかけてオンライン等を利用し、28の大学間交流協定校のうち18大学で交流を継続した。また、新たな交流協定や共同研究契約等の締結や更新を進め、令和元年度以降新たに2大学と大学間交流協定を締結した。 パルマ大学(イタリア) 令和元年12月17日 スラナリー工科大学(タイ) 令和2年12月14日</p> <p>・ 交換留学派遣については、コロナ禍では一時的に派遣及び交流が中止となったが、令和3年に特例制度を新設し、令和元年度から令和4年度までに8か国へ、延べ27人の学生を派遣した(うちオンライン2人)。令和4年度からは、海外からの受入れも、交換留学生及び国費留学生ともに再開し、延べ5か国19人を受け入れた。</p>	A (R4) (A)	B (R4) (B)	<p>海外大学との新規交流協定締結校数が、第3期中期目標中の数値目標6校に対して、令和元年度～令和4年度累計が2校となっているため、左記の評価とする。コロナ禍による制限が緩和された中で、数値目標の達成に向けた方策を講じられたい。</p> <p>・ 海外大学との新規交流協定締結校数が2年連続で0校 ・ 第3期中期目標中の数値目標6校に対して、令和元年度～令和4年度累計が2校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規交流協定締結校数</td> <td>1校</td> <td>1校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	新規交流協定締結校数	1校	1校	0校	0校
	R1	R2	R3	R4											
新規交流協定締結校数	1校	1校	0校	0校											
79	<p>・ 静岡県情報公開条例の実施機関として適正な情報公開を行うとともに、業務運営等に関する情報を積極的に公開する。</p> <p>また、教育研究活動や地域貢献活動に関する情報など効果の高い広報資源を活用し、その情報に適した広報媒体を選択しながら、積極的に大学の魅力が国内外に伝わるよう発信する。 (No.79)</p>	<p>・ 公立大学法人として社会への説明責任を果たすため、情報公開の促進を図り、法令上公表が定められている事項はもとより、教育研究活動や地域貢献活動等について、ホームページ等を通じて積極的に公表した。</p> <p>・ 毎年度広報戦略を検討・策定し、より効果的な情報発信ができるよう工夫した。</p> <p>・ 教職員に対する広報意識を高めるため、毎年、異なるテーマを設定し広報研修会を実施した。</p> <p>・ 本学のウェブアクセシビリティ方針に基づき、毎年度状況調査を実施し、結果を公式サイトで公表した。</p> <p>・ 大学案内の作成・配布や大学公式サイトや公式SNSを活用等多様な媒体を活用し、大学の様々な情報を積極的に情報発信した。進学情報サイトの活用に当たっては、よりターゲットを絞った広報活動を行った。</p> <p>・ 夏休み県大ツアーに関しては、コロナ禍によりオンラインで実施し、各学部の特徴を生かした動画の作成・配信を行った。</p> <p>・ 本学の魅力を、学生目線で情報発信するため、令和4年度から学生広報大使を創設し、学生目線でのSNS発信等の活動を行った。</p> <p>・ 短期大学部では、大学ホームページのほか、マイナビや介護ナビなどの進学情報サイト、医療福祉系学校進学ガイドブックに情報を掲載し、教育研究活動を発信した。また、動画による教育研究活動のホームページ掲載による発信を増加させた。さらに、広報媒体としてツイッターやインスタグラムを追加し、広報大使を活用して学生目線による情報発信を開始した。</p> <p>・ 新型コロナウイルス感染症に関する特設ページを設け、大学における取組状況や注意喚起についてわかりやすく情報発信を行った(令和2年～)。</p>	S (R4) (S)	A (R4) (A)	<p>令和4年度に新設した学生広報大使による情報発信など、計画の達成に向け順調な取組が見られるものの、期間を通じて優れた成果・実績を上げたとは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><主な取組> 【R1年度】 ・ 国内最大級の進学情報Webサイトへの掲載を開始 ・ 民間調査会社の「大学スマホ・ユーザビリティ調査」において、258校中総合8位 ・ 静岡新聞への研究内容の定期的な掲載</p> <p>【R4年度】 ・ 在学生による「学生広報大使」を創設</p>										

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

改善を要する項目（1項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																		
27	<p>・ 社会人、留学生を含めた志願者の状況や入試に関する外部要因の情報に基づく入学確保対策や学内教育体制の検討、見直しに取り組み、各学科、各専攻の定員充足を図る。</p> <p>大学院については、入学定員の充足を目指した取組を推進する。</p> <p>〈数値目標〉 大学院入学定員充足率（大学院全体） 修士／博士前期課程 100% 博士／博士後期課程 100% (No.27)</p>	<p>・ 各学部において、志願者確保にむけた多様な入試広報に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度、令和3年度は対面によるオープンキャンパスは中止し、代替として大学ホームページ上でオンラインオープンキャンパスを実施した。令和4年度はオンラインオープンキャンパスと一部学部では制限を加え対面での実施をした。</p> <p>・ 各学部・研究科において、志願倍率、合格率、試験成績等のデータを用いて入試結果を分析・検証し、志願者数向上のための検討を行った。</p> <p>・ 各研究科等において、大学院志願者の増加、定員充足を目指し、動画配信による大学院説明会や大学院院ホームページの英語版の作成、内部学部生や社会人を対象とした大学院説明会などの各種取組を推進した。</p> <p>・ 令和5年1月までに全ての研究科において、長期履修制度を導入した。</p> <table border="1" data-bbox="501 699 1176 836"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士/博士前期課程</td> <td>100%</td> <td>77.5%</td> <td>109.9%</td> <td>98.2%</td> <td>100.9%</td> </tr> <tr> <td>博士/博士後期課程</td> <td>100%</td> <td>79.5%</td> <td>95.5%</td> <td>56.8%</td> <td>56.8%</td> </tr> </tbody> </table>		目標	R元	R2	R3	R4	修士/博士前期課程	100%	77.5%	109.9%	98.2%	100.9%	博士/博士後期課程	100%	79.5%	95.5%	56.8%	56.8%	B (R4) (B)	B (R4) (B)	<p>大学院の博士／博士後期課程において、大幅に定員を下回る状況が続いている。全国的に博士後期課程の定員未充足の傾向が進んでおり、安定的な学生確保に向けた努力とともに、経営面からも大学院全体の将来構想を検討し、教育研究組織の見直しを行う必要がある。</p> <p>・ 修士/博士前期課程について、全体では100%前後の充足率だが、専攻別の最高充足率と最低充足率で60ポイント以上の差が存在する</p> <p>・ 博士/博士後期課程においても、専攻別の最高充足率と最低充足率の間で、例年100ポイント以上の差がある</p> <p>・ 全19専攻中、例年6以上の専攻において定員割れが発生している</p>
	目標	R元	R2	R3	R4																		
修士/博士前期課程	100%	77.5%	109.9%	98.2%	100.9%																		
博士/博士後期課程	100%	79.5%	95.5%	56.8%	56.8%																		

評価を変更した項目、改善を要する項目、評価に当たっての意見がある項目（静岡県公立大学法人 第3期中期目標期間見込評価）

評価に当たっての意見がある項目（1項目）

資料2

No.	中期計画	計画の実施状況	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
67	<ul style="list-style-type: none"> 理事長・学長のリーダーシップを支えるため、法人・大学事務局組織及び学長補佐体制等について、必要に応じて見直しを行うとともに、様々なデータを収集・分析・情報発信するIR機能の構築と活用を図る。 (No.67) 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的かつ迅速な意思決定を可能とするため、令和3年度から理事長と学長を一体化した。あわせて、法人の役員構成についても見直しを行い、副理事長を廃止し、研究・地域貢献担当理事を新設した。 役員会を毎月1回以上開催し、円滑に法人の意思決定を行った。 令和4年度から法人事務局と大学事務局を事務局として統合し、法人全体に係る事務を一元管理する経営戦略部を新設した。 本学の情報分析及び公開を目的とし、ファクトブックの項目の追加や記載方法を工夫した。また、入試関連など他大学の各種データの収集・分析を行った。 	A (R4) (A)	A (R4) (A)	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>理事長職と学長職の一体化、事務局の組織改編により、事務の効率化を図った。理事長が学長を兼務する組織体制においては、法人経営及び大学運営に対するチェック体制を不断に機能させ、適正なガバナンスの確保に留意されたい。</p> </div> <p><主な取組> 【R3年度】 ・理事長と学長を一体化 ・副理事長を廃止し、研究・地域貢献担当理事を新設 【R4年度】 ・法人事務局と大学事務局を統合</p>

検証後の集計結果（静岡県公立大学法人）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教 育 研 究 等	1 教育	41	0	4	35	2	0	0	4	36	1	0
	2 研究	12	0	2	10	0	0	0	3	9	0	0
	3 地域貢献	8	0	0	8	0	0	0	1	7	0	0
	4 グローバル化	5	0	0	4	1	0	0	1	4	0	0
	合 計	66	0	6 (9.1%)	57 (86.4%)	3 (4.5%)	0	0	9 (13.6%)	56 (84.9%)	1 (1.5%)	0
法 人 経 営	1 業務運営の改善	7	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	合 計	11	0	0	11 (100%)	0	0	0	0	11 (100%)	0	0
自 己 点 検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開・広報の充実	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
	合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0	0	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	2 社会的責任	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	合 計	5	0	0	5 (100%)	0	0	0	0	5 (100%)	0	0
総 合 計		84	0	6 (7.1%)	75 (89.3%)	3 (3.6%)	0	0	10 (11.9%)	73 (86.9%)	1 (1.2%)	0